

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		公共交通機関の不足	埼玉県本庄市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	免許のない若者や高齢者の新たな移動手段「シェアサイクル事業」		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	「本庄の足」		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択一		3.学生
チームメンバー数(公開)	4 名		
代表者(公開)	山下凜花		
メンバー(公開)	金井彩良、角彩綾、森川葵		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名（[メンバー一覧ページ](#)を参照）、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 ➡

OK

＜チームメンバー名簿：[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、**新規性がありたくなり、魅力的でわくわくするようなアイデア**を求めます。その結果、**課題が解決され、社会に良い変化をもたらす**ことが期待されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして**解決したい課題のポイント**を、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

車社会である本庄市で免許のない高齢者や若者の自由な移動を促進したい。

※以上の課題解決のために『**何**』をするアイデアか、それを『**だれ**』が『**だれ**』に対して『**いつ**』『**どこで**』『**どのように**』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

2024 年 8 月に本庄市と早稲田大学主催の地域創生アイデア創出プログラムに参加し、早稲田の系属校、附属校、大学、本庄市を巻き込み地域振興のための画期的なビジネスプランを創り上げました。

本庄市は、車を運転できない中高生を含む若者や、運転免許を返納した高齢者の、日常の移動手段が不足しています。これにより、日常生活に必要な買い物や通院といった基本的な移動が困難になる場合があります。市全体でこの問題に対処する必要があります。本庄駅から新幹線の通過する本庄早稲田駅までは 2km 程あり、徒歩 20 分～30 分かかります。そのため、通勤・通学で駅を利用する人の買い物や外食はしづらい傾向にあります。早稲田大学本庄高等学院の学生・職員は電車（新幹線・在来線）の利用者が 700 人程度いるとされていますが、市内の散策・移動は路線バスを使うケースもあるそうです。しかし、バスの本数は場所によっては 1 時間に 1 本程度であり不便であるため、結局 30 分近く歩いて移動することもあります。本庄駅から市役所、商業施設（ピバモール、アピタ）までは 10 分以上かかり、買い物の荷物を持ちながらでは移動しづらい距離となっています。高齢者や免許返納者は、タクシーやバスの割引が適用されますが、特に繁忙期は台数が少なくなり、呼び出してから来るまでに時間がかかります。早稲田大学本庄高等学院の生徒で本庄市民である方の話によれば、打ち上げや飲み会のシーズン中にタクシーを利用する際市内のタクシーでは運行が回らず、熊谷市や群馬県の伊勢崎市からタクシーを依頼せざるを得なかったことがあるそうです。

このような状況を踏まえ、利用時間や場所の自由度が高く、新たな移動手段として有効なシェアサイクル事業を提案します。

なお、本事業は市内各地に駐輪場（ポート）を設置し、時間貸制の電動自転車のシェアライドサービスとなります。利用者は、エリア内に設置された駐輪場（ポート）で電動自転車の貸出、返却を自由に行うことが可能です。また、支払いは利用時間ごとの料金でスマホ決済となります。

事業の収入源は使用料、自転車に付いた液晶画面やステッカーによる広告収入、国土交通省の補助金で賄うものとします。

本事業の関連企画として、運転者のデータ利用距離に応じて、本庄の名産品が抽選で当たるイベントも検討しています。景品の例としては、本庄野菜詰め合わせや氷菓等の特産品を考えています。これにより、地域振興や新たな観光客の増加が期待できます。

本庄市では、実際に市役所や市内の企業、高校生が連携した地域振興プログラムを積極的に実施しており、このようなイベント開催は現実味があるといえます。

本庄市内の高等学校に通う生徒たちによる合同事業「七高祭プロジェクト」では、2008 年から現在に至るまで様々な活動を行っています。学校や学年の垣根を越え、まちづくりに関するパネルディスカッションや、地元企業への商品開発のプレゼンテーション、合同文化祭などを毎年実施しています。

昨年度の取り組みとしては、

1. 課題解決型プログラム

地域が抱えるいくつかの課題について、高校生・地域・行政が連携して、まちでの実地体験（フィールドワーク）を通じて解決策を考えた。

具体的な課題として、「ごみの減量」、「商店街の賑わい創出」、「本庄野菜の PR」など

2. 合同文化祭

各高校から集まった高校生が、各々の興味関心に基づいて考えた企画や、各高校のクラブ活動によるステージ発表

3. 産学官連携プログラム

市内に工場がある昭和西川株式会社と、県内にキャンパスを有する日本薬科大学の協力のもと、企業・大学・高校生が連携して新商品の開発を行った。

（本庄市 HP より）

などがあり、地域振興プロジェクトとしてのシェアサイクル事業の運営にも期待できます。ちなみに、「本庄の足」チームの山下と角は昨年度の産学官連携プログラムに参加し、ふるさと納税の返礼品として、高級枕の開発に携わっています。本庄市の強みとして、若者（主に高校生）の地域参画が活発なところがあります。それを活かした事業運営を行いたいと考えています。

本事業における効果としては、

①本庄市に在住・通学・通勤する人たちの利便性向上・健康増進②サイクリングルートやイベントを通じた本庄市の魅力発信③総じて本庄市内の飲食店等の利用が増加し、経済活動が活発となる、以上の点が見込めます。更に副効果として、①移動手段を自転車にすることで CO2 排出削減②駐輪場への自転車輸送における新たな雇用を生み出し、高齢者や主婦層の働き口となるが挙げられます。

将来的には自転車だけでなく、電動キックボードや電動車いすでの運用も行い、免許を返納した高齢者や身体に障がいのある方の自由な移動に繋げる方針です。

地域社会の成立のためには住人の存在が不可欠です。彼らのニーズを満たし、今もこれからも住み良い場所を提供することが重要となります。シェアサイクル事業は、例えば免許のない若者や高齢者の移動手段として需要があります。シェアサイクル事業は、地域の交通の利便性向上に効果的です。これにより、若者の定住や地域イベントの振興にも波及するでしょう。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

市内で利用できる主な移動手段には、自家用車、徒歩、自転車、タクシー、路線バスその他「はにぼん号」や「もといずみ号」といった乗合バスも運行しています。これらの乗合バスは事前の電話予約を行うことで停留所間の送迎を受けることができ、駅前に停車している車両については予約なしでの利用も可能です。ですが運行時間や車両の台数に限りがあり、急な要望に対応するのは難しいです。

はにぼん号・もといずみ号料金（本庄市 HP より）

おとな（中学生以上）300 円

小学生 150 円

未就学児（同伴者が必要）無料

回数乗車券 1000 円分（100 円券 10 枚）

一般 800 円

65 歳以上 700 円

75 歳以上 600 円

運転免許証返納者 600 円

早稲田大学本庄高等学院の高校生を対象とした聞き取り調査によれば、本庄駅発のはにぼん号は不在の時間帯もあり、融通が利かないこともあるそうです。

また、本庄駅前ではレンタサイクルのサービスもありますが、観光客や短期間の利用者向けで、返却場所が限られています。通勤や日常的な買い物等の利用には、適していません。本庄市観光協会 HP によれば自転車の貸し出し場所は2カ所で計8台と貸し出し台数が少ないことが分かります。

そこでシェアサイクル事業の運営を行うことで、自動車の運転以外の手段で自由な移動を可能とする仕組みを整えたいと考えました。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. 実現する主体は本庄市とシェアサイクル企業「eco-bike」となります。

eco-bike ではスマートフォンの専用アプリによる電子決済を適用しています。群馬県前橋市や埼玉県熊谷市では88分/15分、2000円/日、6000円/月の価格設定となっています。

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

電動自転車：eco-bike 支給の電動自転車を予定。（初年度は100台分）

駐輪スペース：初期段階では市の保有する土地を予定（市役所駐車場等を活用）。その後、市内のコンビニエンスストアやマンションと連携し、空きスペースに駐輪場を増設する。

運営資金：①1台あたり1カ月11000円で自転車や駐輪場に広告を載せられるシステムを導入。（市内の企業から募集を募る）②国土交通省からの助成金（公共交通機関の低炭素化と利用促進に向けた設備整備事業）③本庄市ふるさと納税 or クラウドファンディングでの寄付（寄付額に応じて、市の特産物や市民が利用できるクーポンを配布）

1. 初期費用（20拠点、100台分）

- ・ 自転車購入費 10万円×100台＝0.1億
- ・ システム関係費 500万円×20拠点＝1億円

2. ランニングコスト（年間）

- ・ 運営費 10万×100台＝0.1億

収入予測は①～③合わせて3000万円となり、初年度の支出予測は1.1億円となる予定。初期段階では運営は赤字ですが、システム規模の拡大や利用者の増加により7年で解消する見込みです。

関連イベントの概要

提供されたデータを基に抽選イベントやクーポン配布を実施します。

景品の例：地元高校生製作の和菓子、ゆるキャラはにぼんグッズ、どらQ、本庄野茶詰め合わせ

クーポンや景品は商店街の個人店や市内の農家と連携して調達する予定。

また、イベントは既存の体制をそのまま活用します。本庄市と市内の高校に通う高校生ボランティア（＝七高祭スタッフ）等が運営を行います。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

事業開始の流れ

初年度

まずは3方面、計20カ所（100台）のレンタルスポットを設置します。

- ①本庄駅南口（本庄市役所、ピバモール方面）
- ②児玉駅周辺（本庄市児玉総合体育館、塙保己一記念館、住宅街方面）
- ③本庄早稲田駅周辺（マリーゴールドの丘、早稲田大学本庄高等学院方面）

※最初の1年は市のもつ土地に拠点を置く。その後、コンビニエンスストアやマンションの空きスペースにも駐輪場を増設します。本庄市は車社会で、関越道も通過しているため、施設の駐車スペースが広大です。それを駐輪場に活用します。なお、駐輪場は年10箇所、50台ずつ増やす予定です。

本事業は、7年での黒字達成を見込んでいます。

また、電動車いすのシェアサービスも開始し、高齢者や障がいのある方、病気や怪我等を理由に移動が困難な人を

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

対象とした事業も展開する予定です。都内で普及する電動キックボードも利用者のニーズに合わせてサービスを実施する可能性があります。

収支予測

収入(年間)

1.利用料

176 円(30 分)×3 万=626 万円

2000 円×0.5 万=1000 万

6000 円×0.1 万=600 万

計 2226 万円

2 広告収入

①. 自転車広告

②. 駐輪場広告

11000 円(1 台あたり1 カ月)×80 台=96.8 万円

11000 円×20 箇所=24.2 万円

3.国土交通省からの補助金

1~3 合わせて 3000 万円の収入を予測

支出(年間)

1.初期費用(20 拠点、100 台分)

①. 自転車購入費 10 万円×100 台=0.1 億

②. システム関係費 500 万円×20 拠点=1 億円

2. ランニングコスト(年間)

運営費 10 万×100 台=0.1 億

収支予測

:収入予測

3000 万円

:支出予測(年間)

1.1 億円(初年度)

0.1 億円(次年度以降)

7 年目で赤字解消、黒字化達成！

A large empty rectangular box with a thin black border, occupying the central portion of the page. It is intended for the user to provide details for the idea explanation and the flow to realization.